

## ブルース・クレイドル バイオグラフィー

---

ブルース・クレイドル、有名なヒット曲の優れたカバーによって「ブルース・ザ・ヴォイス」としてその名が知られるようになり、様々なバンドや世界的なスター達と競演するようになった。2005年5月にドルンビルンでジョー・クッカーの前座として「Name Live」バンドのメインボーカルを務め、2006年8月にはウィーンでTOTOのスペシャルゲストとして演奏した。Status Quo, Jamiroquai, BAP, Dr. Feelgood, DJ Boboなどの著名なアーティストと競演するなど豊かなキャリアを持つ。

2007年末より、ブルース・クレイドルは、自作の曲に重点を置くようになり、2008年には彼の作品は、オーストリアのオンライン・ソングコンテスト「Zukunftsmusik (未来の音楽) .at」で2位に輝いた。2009年に、ヒット曲「She's Gonna Be Mine」と4つのボーナストラックを含むアルバムが発売された。2010年1月には、ハイチの地震の犠牲者のために作った「Song for Haiti (Time to Give)」が、カリタスのチャリティーキャンペーンのオフィシャルソングとして採用された。ファンは彼の歌手、ソングライターとしての才能をますます高く評価し、注目している。

2010年10月にブルースは、彼のバンド「ブルース・クレイドル・バンド」を厳選したファンに披露して、大成功を収め、さらなる飛躍を遂げた。このショーは三台のテレビカメラで撮影され、「ブルース・クレイドル・バンド」は国際的な舞台での成功が約束されていると報道された。

バンドのそれぞれのメンバーは、ミュージックシーンで長いキャリアを積んでおり、培われた経験のすべてと、モットーである「心、情熱、ロックンロールの魂」をエネルギーにステージに投入する。メンバーの個性の複合効果により、バンドが本来あるべき姿、ロックンロール・ソングライティングにおける卓越した才能が様々な形で生かされたクリエイティブなフォーメーション、となることが可能になった。

### 2010年10月31日付け、「W&W」紙の、ブルース・クレイドル・バンドのデビューコンサートへの記事からの抜粋。

『ブルース・クレイドル・バンドのデビューコンサートは、オーストリア、ホーエネムスのテニス・イベント・センターで行われた。コンサートが開始した21時10分まで、満員の聴衆の誰一人として、今夜いったい何が起きるのか、予想していなかったに違いない。コンサートでは、ブルース・クレイドルの有名な歌ばかりではなく、新曲も演奏され、会場は興奮の坩堝となった。ロック界の新星に観客は魅了されたのだ。今後の活躍が期待される。』

ブルース・クレイドル・バンドのメンバー

ブルース・クレイドル：リードヴォーカル、ハーブ、ギター

ロン・アマン：リードギター、バックコーラス

フロー・ビーンスト：キーボード

マルコ・コモリ：バス

ロジャー・ビュヘル：ドラムス、パーカッション

### Bruce Cradle Management

Roger Büchel - Schützenstrasse 15 - 8702 Zollikon-Zürich - Switzerland  
+41 79 623 23 80 - management@brucecradle.com  
www.brucecradle.com